

～ ギリシャ・ローマの古代文明（教科書 p.26～27）

◆単元名: 第2章 原始・古代の日本と世界 1節 人類の出現と文明のおこり

④すべての道はローマに通ず ▶ギリシャ・ローマの古代文明（教科書 p.26～27）

◆本時の目標: ギリシャ・ローマの文明の特色について、自然条件・農業・文字・金属器などの面からとらえ、世界各地でおこった古代文明を比べて共通することや違いを考える。／ギリシャの民主政やローマの共和政について現代の政治制度と比較し、理解する。

□指導にあたって:

平成 29 年告示の学習指導要領では、「ギリシャ・ローマの文明について、政治制度など民主政治の来歴の観点から取り扱うこと」が明記された。豊富な資料を用いてギリシャの直接民主政、ローマの共和政・帝政に興味をもたせたい。また、宗教や奴隷制、男女差別などによってそれらが成り立っていた背景や、民主主義との相違点、メリット・デメリットを考えさせるなど、深い学びにつなげていくこともできる。

□事例資料の解説・さらに活用するポイント:

●資料3 壺に描かれた兵士

ポリスが建設されはじめた紀元前8世紀ごろ、ポリスの防衛にあたるのは貴族の騎兵であった。しかし紀元前7世紀ごろより、市民（成年男子）有志がその役割を担うようになった。背景には、鉄器の普及による武器価格の下落や、農具の改良による農業の効率化に伴い、富や時間の余剰が生まれたことなどが考えられる。資料に描かれた兵士たちは、槍と盾を持ち、鎧をつけて、目以外の頭部がすべて覆われる兜を被って隊列を成している。このように武装した重装歩兵（ポプリーテス）が密集部隊（ファランクス）を形成し、槍をそろえて敵に突進する戦術は、共同体の団結心とともに発達した。

●資料4 壺に描かれた短距離走

古代ギリシャで行われていたオリンピックは、政治的に中立に行われた。この精神は、現在のオリンピック憲章に引き継がれている。古代ギリシャでのオリンピックは、ギリシャ神話の主神であるゼウスに捧げられたものであった。古代オリンピックでは、すべての選手が裸で参加した。これは、不正を防ぐとともに、すべての人が生活水準や身分によらずに競うためのものであった。

●資料5 ミロのビーナス

紀元前2世紀ごろに制作されたとされる、高さ214 cmの大理石の石像で、1820年にミロ（メロス）島で発見された。発見当時は6個の断片に分かれていた。両腕は現在も見つかっておらず、また石像の腕や耳などに、腕輪やイヤリングなどの装飾品がはめ込まれていたと考えられる穴があるが、それらの装飾品も発見されていない。ギリシャ神話の美の女神ビーナスを表現したとされているが、海の神アンフィトリテであるという説もある。

●資料9 古代ローマの水道橋

ガール水道橋とよばれる石造りの水道橋は、紀元前19世紀に水源から50km離れた都市に水を供給するために建築されたといわれている。現在では高さ50m、全長275mにわたる部分が残っており、古代ローマの高い技術力を示している。1985年に、ユネスコの世界文化遺産に登録された。

古代ローマ人は、現代でも「インフラの父」とよばれることがある。当時のローマ人たちは、インフラのことをラテン語で「必要な事業」と表現した。「すべての道はローマに通ず」で有名な道路をはじめ、水道、橋、神殿などのハードインフラ、さらに治安、医療、教育、郵便までもが、国や政治家などによって市民に提供され、整備されていた。